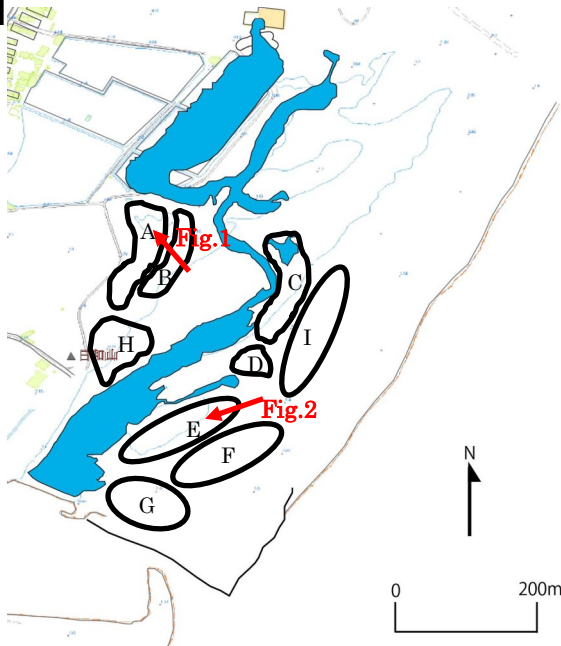


蒲生干潟の植物④



2020/07/17 調査エリア 2020年7月調査



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアEを北東側から撮影



Fig.3 エリアE・Iで撮影



Fig.4 エリアE・IIで撮影

調査日時：2020年7月17日（金）9:30～11:00, 天気：くもり

6月14日に梅雨入りしてから曇天が続き、例年より雨量も多かったが潟湖の水量は少なく、今月も継続して植生調査を行うことができた。

エリアAを南東方面から見ると、人の背丈を超える程の高さまで青々とヨシが伸びていた (Fig.1)。エリアB, C, E, Hの潟湖にごく近いエリアではハママツナが群生している。Fig.2のとおり、より潟湖に近いIIと潟湖から離れたIに生育しているハママツナを比較すると、より潟湖に近いIIの方が全体的に濃い緑色に見える。更に、その高さを比較すると、Iでは10cmに満たない程度 (Fig.3) だが、IIでは20cmを超えるものもあり (Fig.4)、明らかに生長の仕方が違う。



Fig.5 エリアFで撮影



Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアGで撮影

先月花を咲かせていたハマヒルガオは、実をつけていた (Fig.5)。その実を割ってみると、まだ未熟ではあるが4つの種子が見えた。また、先月は雄性期の花を見ることができたハマボウフウは、雌性期を既に終え、実をつけていた (Fig.6)。割ってみると、こちらも未熟ではあるが種子を確認することができた。シオクグやコウボウシバなどは、花期を終えて、完全に熟した種子が一部地面に落ちていた。エリアGでは、畑地などで見かけるイヌホオズキが花を咲かせていた (Fig.7)。

(丹野美紀)